



教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「秋風」
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- 「ミカエル鶴巻健二師来訪」
- その他



「秋風」

主任司祭 パウロ 豊島 治

十月のご挨拶を申し上げます。

暑い日々も終わりにになると報じられています。調べてみますと、二十八日現在で東京は猛暑日（最高気温三十五度以上）が二十二日、真夏日（同三十度以上）が九十日、夏日（同二十五度以上）が百二十七日と記録されています。干支一回り前二〇二一年の記録をみると夏日はほぼ同じですが、猛暑日はたった一日。今年は高い感じがします。皆さま、お疲れではないでしょうか。これからの気温低下で体調を崩さないように適度な気温適応のための習慣をはじめましょう。

カトリック教会は十月四日をもって本年度の「すべてのいのちを守る月間」を結びます。

この月間を制定したときの会長の言葉のはじまりはこのように記しています。

『すべてのいのちを守るためには、ライフスタイルと日々の行動の変革が重要であることはいうまでもありませんが、とくにこの月間に、日本の教会全体で、すべてのいのちを守るという意識と自覚を深め、地域社会の人々と、とくに若者たちとともに、それを具体的な行動に移す努力をしたいと思えます（二〇二二年六月に文書は一部修正）』皆さんはどうでしょうか。どのような新しい策を行ったでしょうか。

東京二十三区は前からも行政単位でごみの分別の呼びかけが行われています。墨田区もプラスチックの分別収集が十月からはじまります。現時点では教会のある石原地域は今回の対象から外れています。が、「安全」で「キレイ」な「概ね三十センチ以内のプラスチック百%素材」を回収します」と案内が明記され協力をよびかけています。ゴミ出し前に気に掛けることはまず一步。

さて、カトリック教会はどう呼び掛けていくのかみてみましょう。

『『ラウダート・シ』に示されたインテグラル・エコロジーとは、わたしたち人間のいのちを成り立たせている自分自身とのかかわり、他者とのかかわり、自然とのかかわり、神とのかかわりに、しかるべき調和を取り戻しつつ、人格的完成を目指して、皆がともに歩む世界（人類共同体）を作ろうとする、すこやかないのちの営みに立ち返る探求と取り組みのことです。』

前回ご紹介した「ラウダート・シ」デスクのホームページにある説明です。そこには各学校や、修道院の緑化再生作業、北広島教会の取り組みが動画で紹介されています。

先日、ある修道院で過ごしたとき、共同体が使用する食堂を利用させていたのだのですが、壁に宣言がかかれています。写真撮影は許可されず（当たり前ですよね）、メモを取ることも恥ずかしいから駄目と修道院長さまにいわれたので、記憶をたよりに具体的な修道院名がわからないように多少文体を変えて紹介してみます。

「ラウダート・シ
某修道院の取り組み」

●宣言その一「朝挨拶をきちんと」

神によってその日の命をいただいた私たちは気持ちよい朝の挨拶を交わします。挨拶が気持ちよくできないと一日が不機嫌になりますし、不機嫌はモノや人に対して丁寧でなくなりません。マザーテレサの言葉を思い起こしましょう『平和はほほえみから始まります』。

●宣言その二「その時必要なものを」

めいめいの食事を自分の皿に盛るとき食材にこめられている神の愛を感じながらいただくようにしましょう。決して食べたいという欲求ではなく生かされているいのちをより生かすためにいただくことを思いながら。

●宣言その三「洗濯は糸の細さまで」

衣服の洗濯が完了すると気持ちが変わります。洗濯のための道具も気持ちよい状態にしましょう。糸のゴミを取る部品も感謝の気持ちをもって洗いましょう、埃も拭き取りましよう。清められるための器（洗濯機）は常にありべき状態に。

●宣言その四「灯はこころの光から」

神のはじめことばは「光あれ」でした。その光を最優先に。テレビの光、照明は必要なときだけに。

教皇さまは九月二十七日気候に関する勧めをくださったと報じられました。信仰をもって環境に向き合うわたしたちでありますように。